

## 4. 市税予算の内訳

- 当初予算額 686,795百万円  
 (対前年度 6,367百万円 0.9%) 5年連続の増

企業収益や雇用情勢の改善に足踏みがみられることなどを反映して、市民税が前年度のほぼ横ばいで推移すると見込まれることなどから、市税総額としては、前年度に比べ、0.9%の増にとどまる見込み。

(単位：百万円、%)

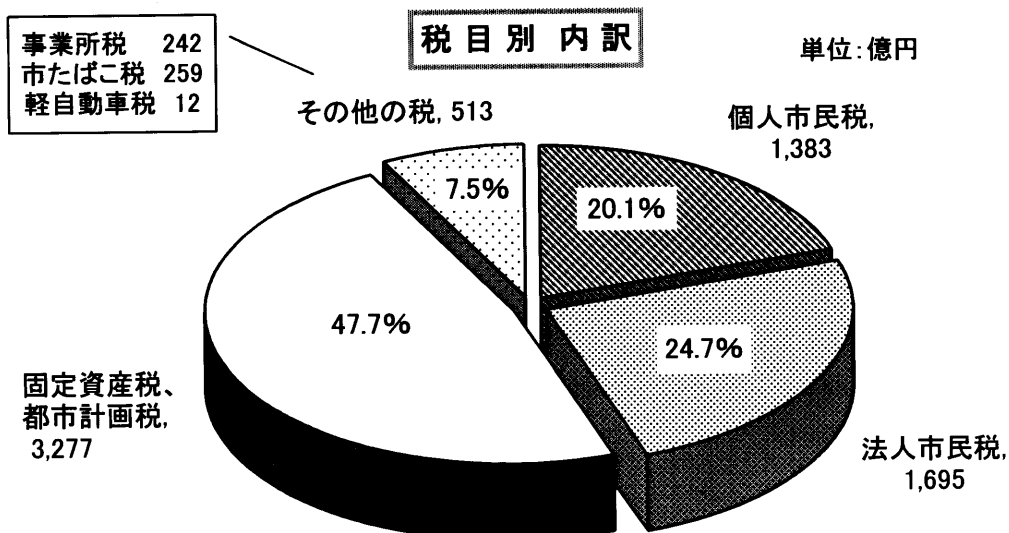
区 分	20年度当初	19年度当初	増 △ 減	伸 び 率
市 税 総 計	686,795	680,428	6,367	0.9
市 民 税	307,819	306,298	1,521	0.5
個人市民税	138,334	136,561	1,773	1.3
法人市民税	169,485	169,737	△ 252	△ 0.1
固 定 資 産 税 都 市 計 画 税	327,737	322,509	5,228	1.6
そ の 他 の 税	51,239	51,621	△ 382	△ 0.7

※法人市民税については、法人税割の超過課税による増収額を見込んで計上している。

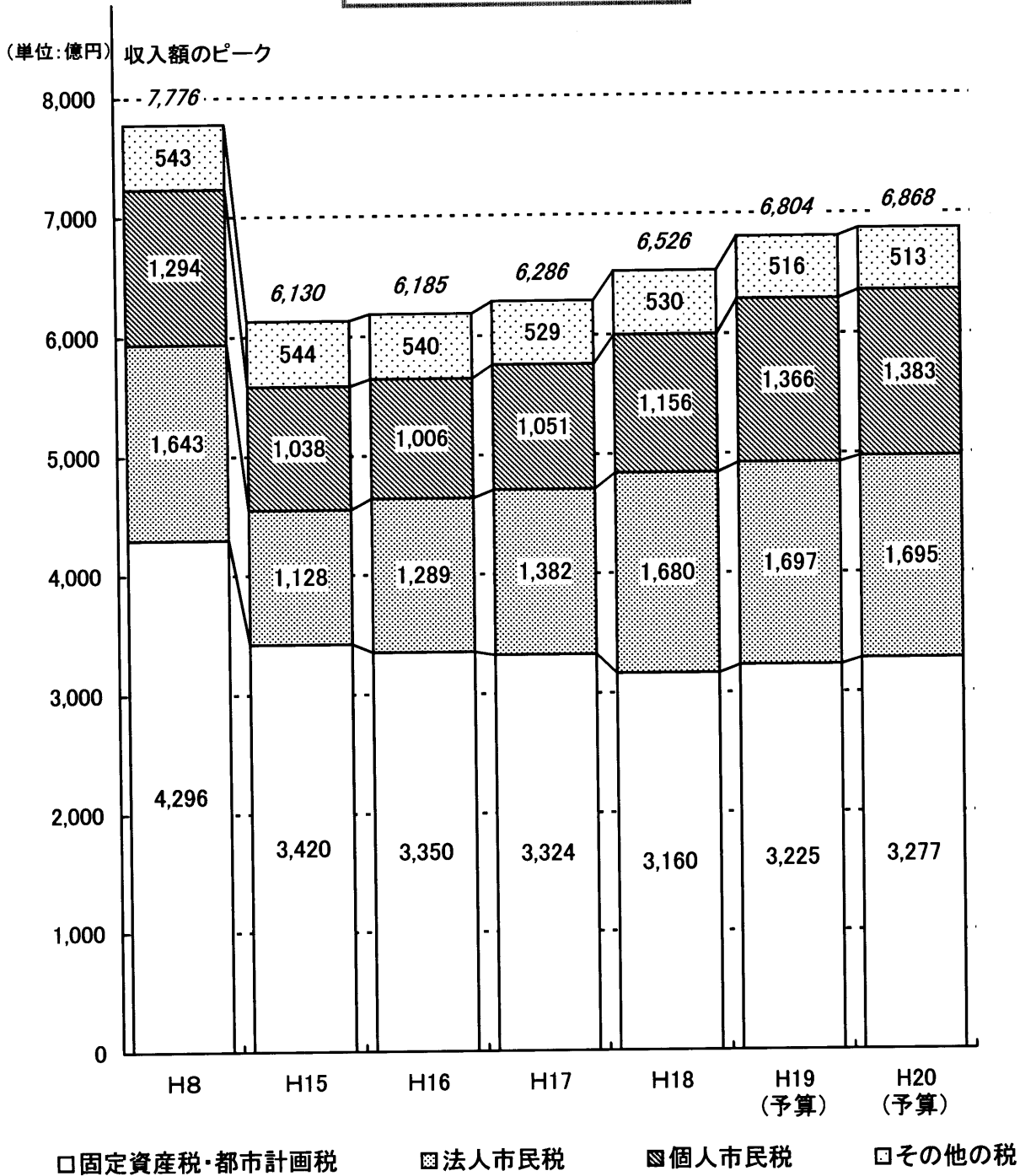
○増収額 20年度 212億円 (19年度 213億円)

○税 率 14.5%

ただし、資本金等が1億円以下で法人税額が年2,000万円以下の法人等については、12.3%の軽減税率を適用



## 市税収入額の推移



### 収納率の推移

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度 (見込)	20年度 (目標)
93.3%	93.9%	94.4%	95.1%	95.5%	95.8%

18年度までは決算。

## 5. 使用料・手数料等の改定

運営の健全化を図るため改定するもの

(20年4月から)

- |          |     |      |
|----------|-----|------|
| ・国民健康保険料 | 改定率 | 1.2% |
|----------|-----|------|

賦課方式の変更等による経過措置対象世帯のうち、  
高齢者世帯等に対して、引き続き激変緩和措置を実施

国等に準じて改定するもの

(20年4月から)

- |                |     |     |
|----------------|-----|-----|
| ・心身障害者扶養共済制度掛金 | 改定前 | 改定後 |
|----------------|-----|-----|

加入時年齢 40歳以上～45歳未満の場合

既加入者	月額	6,000円	→	8,700円	
新規加入者	月額	6,000円	→	14,300円	など

(20年4月から)

- |          |     |     |
|----------|-----|-----|
| ・高等学校授業料 | 改定前 | 改定後 |
|----------|-----|-----|

定時制	年額	31,200円	→	32,400円	など
-----	----	---------	---	---------	----

## (市民サービス等について)

適正化を図るもの

### ○ 児童生徒就学費補助

小学校の場合

- ・学用品費及び通学用品費  
(現行) 13,270円(定額) → 学校徴収金  
全額支給(約8,000円)
- ・校外活動費(泊なし)  
(現行) 1,510円以内 → 全額支給(約2,000円)
- ・校外活動費(泊あり)  
(現行) 3,470円以内 → 全額支給(約14,000円) など

### ○ 重度障害者タクシー料金助成

リフト付タクシー利用対象者を車いす常用者に限定

サービス拡充のためモデル実施するもの

### ○ 児童いきいき放課後事業

活動時間延長のモデル実施 5ヵ所

		現 行	モデル実施
活動時間	平日	18時まで	19時まで(18時まで無料)
	土曜・長休日	9:00～18:00	8:30～19:00
利用料		無 料	月額 2,500円
一時利用		無 料	1回 400円
補食(おやつ)		—	実費負担
利用料の減免		—	減免なし

## 6. 市政改革(数値目標)の達成状況

削減目標額 2, 250億円(平成18年度～22年度)

目標達成額 1, 754億円(平成18年度～20年度)

[ 達成率 78% ]

		市政改革(数値目標)
		(2ヵ年実績累計ベース)
経常経費 (人件費+経常的施策経費及び管理費)	<p>【削減目標額 <math>\Delta 900</math>億円】</p> <p>〔 ・経常経費の<math>\Delta 2</math>割削減 (5年間で<math>\Delta 900</math>億円) ⇒1年当たり <math>\Delta 180</math>億円/年、<math>\Delta 4.0\%</math>/年 〕</p>	<p><math>\Delta 231</math>億円(<math>\Delta 5.1\%</math>)</p> <p>〔 19年度 <math>\Delta 59</math>億円(<math>\Delta 1.3\%</math>) 18年度 <math>\Delta 172</math>億円(<math>\Delta 3.8\%</math>) 〕</p> <p>【達成率 26%】</p>
投資的経費	<p>【削減目標額 <math>\Delta 1,100</math>億円】</p> <p>〔 ・新規事業から維持管理への公共事業の転換等 (5年間で<math>\Delta 1,100</math>億円、<math>\Delta 25\%</math>) ⇒1年当たり <math>\Delta 220</math>億円/年、<math>\Delta 5.0\%</math>/年 〕</p>	<p><math>\Delta 630</math>億円(<math>\Delta 14.3\%</math>)</p> <p>〔 19年度 <math>\Delta 115</math>億円(<math>\Delta 2.6\%</math>) 18年度 <math>\Delta 515</math>億円(<math>\Delta 11.7\%</math>) 〕</p> <p>【達成率 57%】</p>
特別会計繰出金	<p>【削減目標額 <math>\Delta 250</math>億円】</p> <p>〔 ・一般会計からの繰出(<math>\text{⑩}2,507</math>億円)の見直し (3年間で<math>\Delta 250</math>億円) ⇒1年当たり <math>\Delta 83</math>億円/年、<math>\Delta 3.3\%</math>/年 〕</p>	<p><math>\Delta 354</math>億円(<math>\Delta 14.2\%</math>)</p> <p>〔 19年度 <math>\Delta 209</math>億円(<math>\Delta 8.4\%</math>) 18年度 <math>\Delta 145</math>億円(<math>\Delta 5.8\%</math>) 〕</p> <p>【達成率 142%】</p>
計	<p>【削減目標額 <math>\Delta 2,250</math>億円】</p>	<p><math>\Delta 1,215</math>億円</p> <p>〔 19年度 <math>\Delta 383</math>億円 18年度 <math>\Delta 832</math>億円 〕</p> <p>【達成率 54%】</p>

(注)財務リスクの処理に要する経費(道路公社の経営改善対策 26億円)は除いている。

市債発行額 (除く、臨時財政対策債・減税補てん債)	<p>【削減目標額 <math>\Delta 714</math>億円】</p> <p>〔 ・市債発行を大幅に圧縮 (5年間で<math>\Delta 714</math>億円(1,514億円→800億円)) ⇒1年当たり <math>\Delta 143</math>億円/年 〕</p>	<p><math>\Delta 417</math>億円</p> <p>〔 19年度 <math>\Delta 70</math>億円 18年度 <math>\Delta 347</math>億円 〕</p> <p>【達成率 58%】</p>
職員数	<p>【削減目標 <math>\Delta 5,000</math>人超】</p> <p>(独立行政法人化を含めると<math>\Delta 7,000</math>人超)</p>	<p><math>\Delta 3,340</math>人</p> <p>【達成率 <math>\Delta 5,000</math>人超に対して60%】</p> <p>(<math>\Delta 4,656</math>人)</p> <p>【達成率 <math>\Delta 7,000</math>人超に対して61%】</p>

**コラム③**

平成20年度における主な見直し

- 【施設の活用の見直し】
- 労働会館(アピオ大阪)の廃止
- ごみ焼却工場配置計画の見直し  
稼働体制 10工場⇒9工場
- 【公共事業の見直し】
- 新人工島土地造成事業  
緊急性の乏しい市単独事業部分は休止し、  
事業のあり方を検討  
〔但し、フェニックス事業分の整備が完了する〕  
平成21年度まで合併施工分は整備
- 夢洲土地造成事業  
事業収支の明確化を図るため、港営事業  
会計へ移行
- 【人材の弾力的運用】
- 暫定的な人材活用による委託料の削減  
〔資源ごみ中継地・容器包装プラスチック〕  
中継施設運営等の直営化 49名
- 地域安全対策事業等に技能職員を活用した  
効率的な業務執行体制の確保
- 【経営形態の見直し】
- 地方独立行政法人大阪市立工業研究所  
への移行
- 博物館施設の地方独立行政法人化への  
移行に向けた検討
- 【民間委託等の推進】
- 指定管理者制度の導入拡大  
(中央授産場、大規模公園)
- 指定管理者制度導入施設における  
利用料金制への移行  
(自転車駐車場など)
- 業務の民間委託化  
(公立保育所運営など)
- 保健福祉センターにおける環境衛生・  
食品衛生等関係業務の集約化

予算(達成状況)	
(20年度予算)	(3ヵ年累計)
<p><u>△198億円(△4.4%)</u></p> <p>〔 人件費 <u>△123億円</u> 物件費 <u>△75億円</u> 〕</p>	<p><u>△429億円(△9.5%)</u></p> <p>〔 人件費 <u>△243億円</u> 物件費 <u>△186億円</u> 〕</p> <p>【達成率 48%】</p>
<p><u>△378億円(△8.6%)</u></p>	<p><u>△1,008億円(△22.9%)</u></p> <p>【達成率 92%】</p>
<p><u>37億円(1.5%)</u></p>	<p><u>△317億円(△12.7%)</u></p> <p>【達成率 127%】</p>
<p><u>△539億円</u></p>	<p><u>△1,754億円</u></p> <p>【達成率 78%】</p>

<p><u>△167億円</u></p> <p>〔 20年度発行額 <u>930億円</u> 〕</p>	<p><u>△584億円</u></p> <p>【達成率 82%】</p>
--	---------------------------------------

<p>△1,319人</p> <p>(△1,459人)</p>	<p>△4,659人</p> <p>【達成率△5,000人超に対して83%】</p> <p>(△6,115人)</p> <p>【達成率△7,000人超に対して80%】</p>
---------------------------------	---